

諏訪之瀬島の火山活動解説資料

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

鹿児島地方気象台

＜噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ＞

御岳^{おたけ}火口では、6月下旬から7月上旬にかけて爆発が増加し、火口から1km付近まで飛散する大きな噴石が複数回観測されました。22日にも一時的に爆発が増加しましたが、その後、噴火活動は低下しています。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す変化はみられていません。

これらのことから、御岳火口から1kmを超え、概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられます。

一方、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

【防災上の警戒事項等】

御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況（図2～5）

御岳^{おたけ}火口では、6月下旬から7月上旬にかけて爆発が増加し、6月21日と23日の爆発では火口から1km付近まで飛散する大きな噴石を観測しました。7月8日にも火口から約800mまで飛散する大きな噴石を観測しました。また、5月中旬から噴煙の高さが2,000mを超える噴火が度々観測されており、7月中旬には3,000mを超える噴火が複数回発生しました。さらに22日には一時的に爆発が増加しましたが、その後、噴火活動は低下しています。7月9日以降、火口から1km付近まで飛散する大きな噴石は観測されていません。その他の観測データにも火山活動の活発化を示す特段の変化は認められません。

このように、御岳火口から1kmを超え、概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低下したと考えられますが、現在も噴火活動が継続していることから、御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石が飛散する可能性があります。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/index.html>) や気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学及び十島村のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

一方、傾斜計では7月15日頃からわずかな西上がりの変動がみられています。傾斜計の西上がりの変化は2020年12月や2021年3月の活動の活発化に先行して観測され、活発化に伴い西下がりの変化が観測されています。この変化は諏訪之瀬島西側のやや深部から御岳火口直下へのマグマの上昇を示唆していると考えられます。



図1 諏訪之瀬島 警戒が必要な範囲

御岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

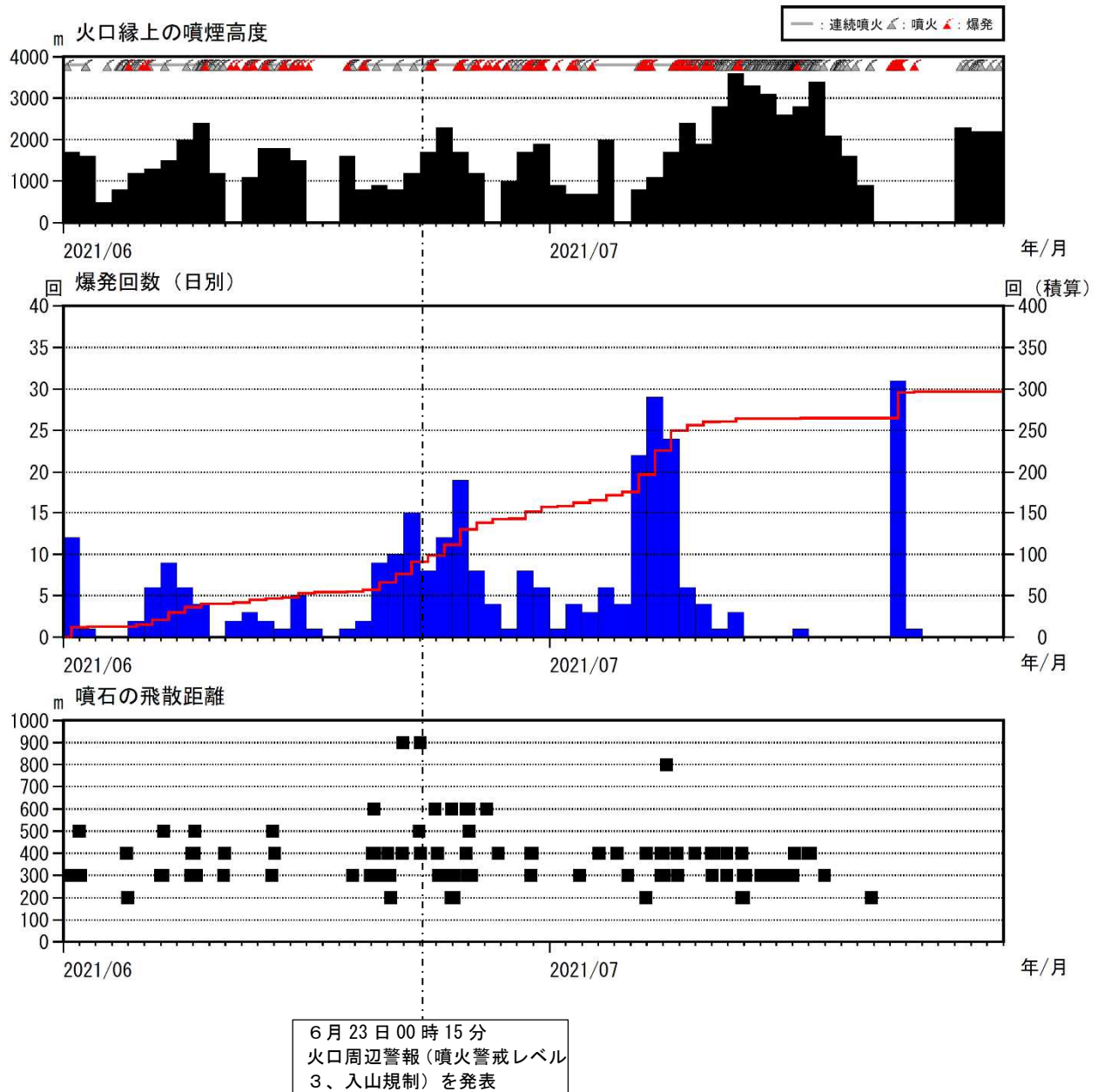


図2 諏訪之瀬島 噴煙の日最高高度、爆発の日別回数及び噴石の飛散距離（6月1日～7月28日）

- ・ 6月下旬から7月上旬にかけて爆発が増加し、6月21日と23日の爆発では火口から1km付近まで飛散する大きな噴石を観測しました。
- ・ 7月9日以降、火口から1km付近まで飛散する大きな噴石は観測されていません。
- ・ 7月中旬には、3,000mを超える噴火が一時的に複数回発生しました。
- ・ 7月22日に一時的に爆発が増加しましたが、山上付近が雲に覆われていたため噴煙等は観測できていません。

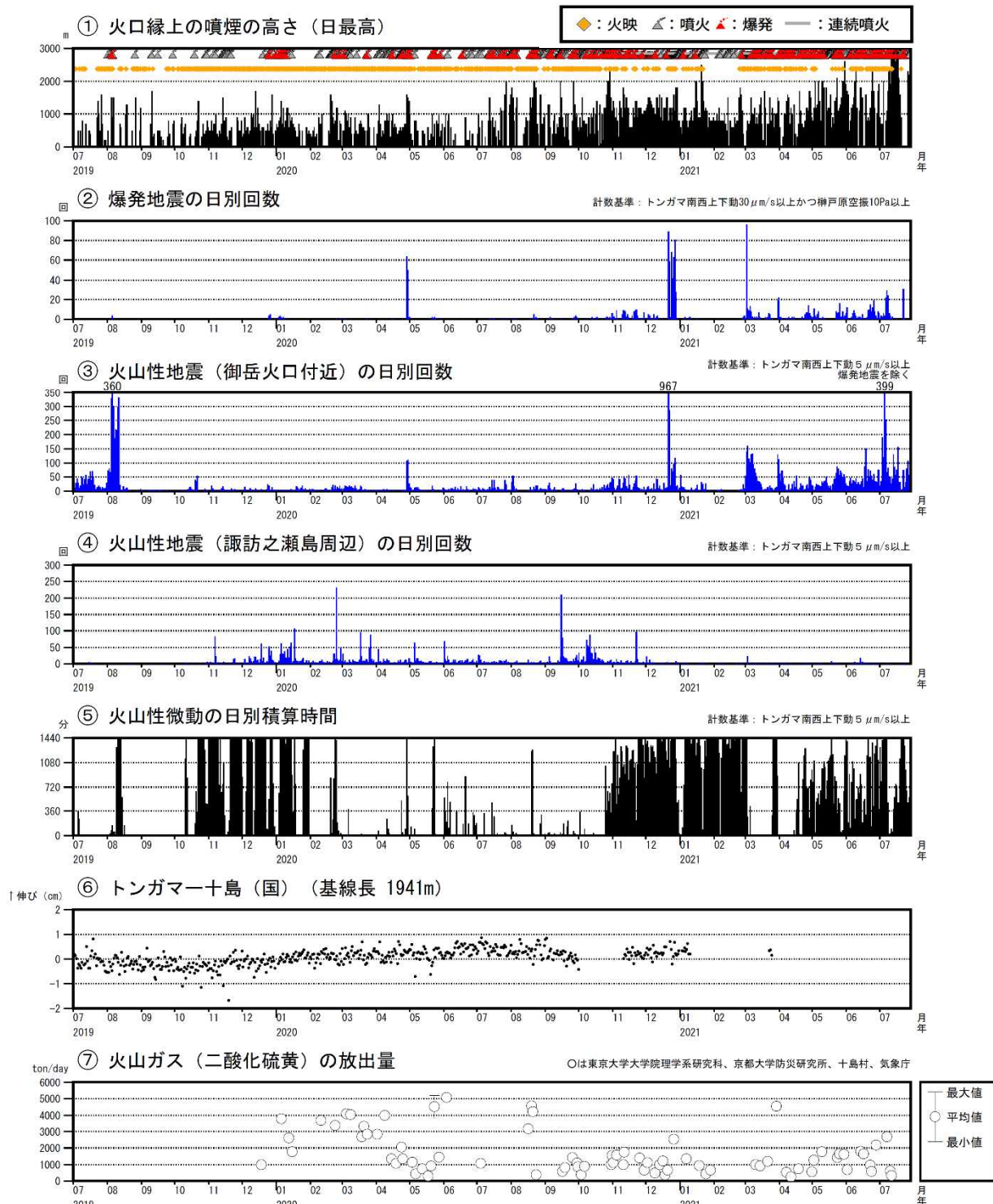


図3 諏訪之瀬島 最近の火山活動経過図（2019年7月～2021年7月28日）

<7月の状況>

- ・中旬には噴煙の高さが3,000mを超える噴火が複数回発生しました。最高で火口縁上3,600mまで上がりました。
- ・御岳火口付近の火山性地震は噴火活動に対応して増減を繰り返しています。
- ・諏訪之瀬島周辺の火山性地震は少ない状態で経過しています。
- ・火山性微動は主に噴火に伴って発生しています。
- ・東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね1日あたり1,000トン前後で経過しています。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、十島村及び気象庁は2019年12月より火山ガス（二酸化硫黄）放出量の観測を始めました。

トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間があります。

⑥の基線は図5の①に対応しています。空白部分は欠測を示しています。

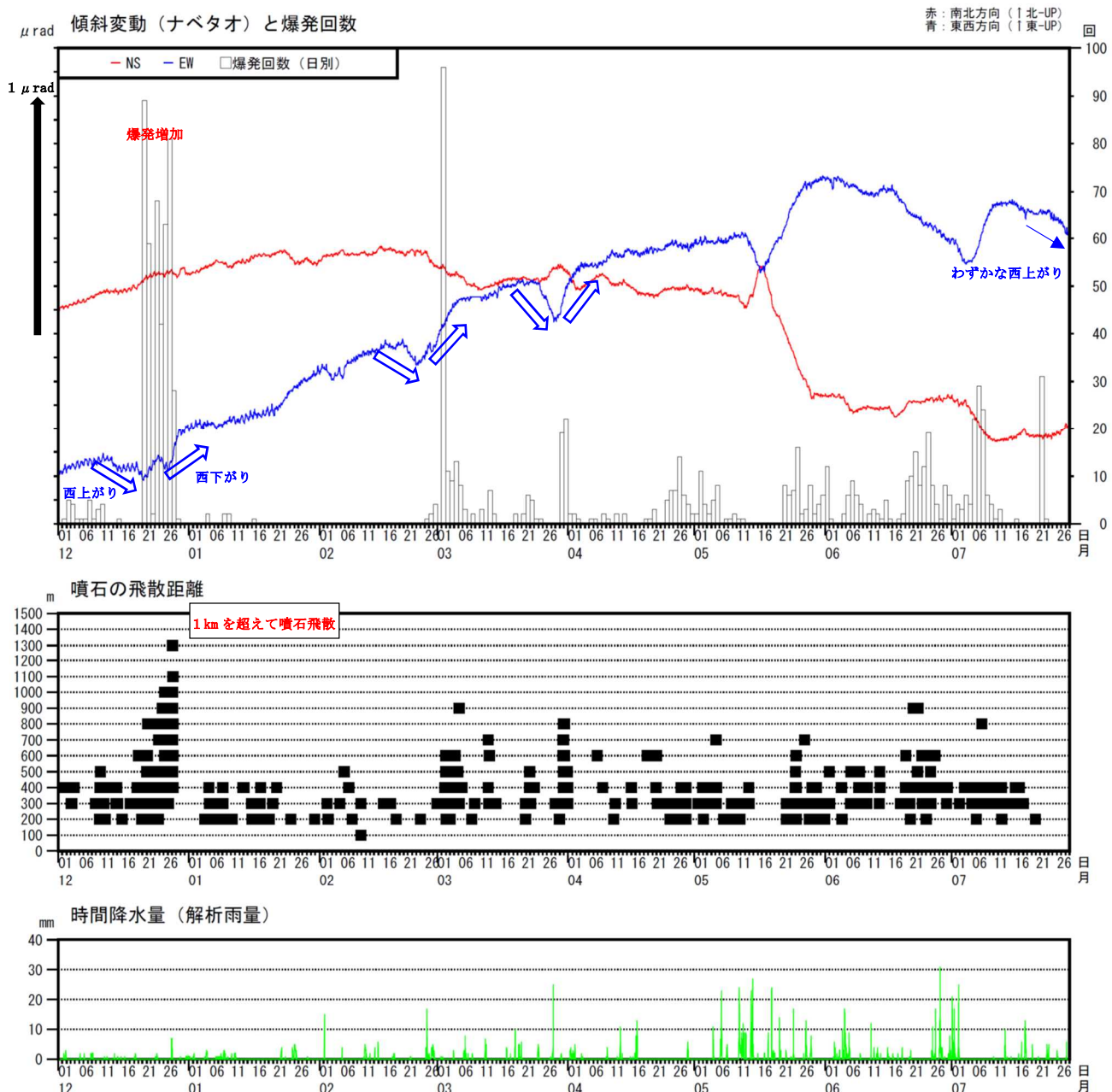


図4 諏訪之瀬島 ナベタオ観測点の傾斜変動と噴火活動（2020年12月～2021年7月28日）

- ・傾斜計では7月15日頃からわずかな西上がりの変動がみられています。
- ・西上がりの変化は2020年12月や2021年3月の活動の活発化に先行して観測され、活発化に伴い西下がりの変化が観測されています。

傾斜データは出水期を中心に降水の影響を受ける場合があります。

